

日本教育メディア学会
学会通信第62号

学会ホームページ <http://jaems.jp/>

2013年5月5日発行

事務局

〒176-8534

東京都練馬区豊玉上1-26-1

武蔵大学社会学部

中橋雄研究室内

電話：03-5984-4792

E-mail：office@jaems.jp

目次

第20回年次大会にあたって ご挨拶	2
第20回年次大会のご案内【第1報】	4
研究会のお知らせと発表の募集	6
2012年度 ワークショップ報告	6
ICoME2013のご案内【第2報】	9
論文投稿のご案内	10
日本教育メディア学会の学会ロゴの募集について	11
第7期第3、4、5回理事会議事録	13
学会費納入のお願い、入会者・退会者	16

第 20 回年次大会にあたって ご挨拶

和歌山大学 豊田充崇

平成 25 年 10 月 12 日（土）、13 日（日）の 2 日間にわたり、記念すべき第 20 回目となる「日本教育メディア学会・年次大会」が、和歌山の地で開催されます。

和歌山は、平成 18 年「教育の情報化に関する調査結果（文科省）」で設備環境・教員の指導力ともに全国でワーストの位置にありました。それ以降、急速な情報機器の整備や指導力向上に努め、電子黒板設置率全国 1 位やフューチャースクール事業をはじめ様々な教育の情報化に関する事業を展開し、各地から視察を受けるまでになりました。

そういった中、当学会の節目となる 20 回目の年次大会が和歌山で開催されることは非常に意義深く、嬉しく思うとともに、当地における教育の情報化や教育研究に拍車がかかることも期待しております。

和歌山大学会場は、和歌山市を一望する高台にあり、隣接地では住宅や商業地の大規模開発が進んでいます。昨年 4 月には「和歌山大学前駅」（南海電車）が完成し、大阪（なんば）もしくは関西空港から約 1 時間という立地条件に恵まれることになりました。大阪方面からのバイパスや IC も整備され、学内に一般用駐車場も完備していますので、交通手段の選択肢は豊富です。

さて、今大会では、自由研究発表をはじめ、下記のシンポジウムや課題研究を予定しています。まだ企画段階ではありますが、早急に内容面や募集方法について詰めていきますので、今後の当会からの続報に注目してください。

シンポジウム 「タブレット端末・デジタル教科書は授業を変えるか」

課題研究Ⅰ 情報活用能力とその評価

課題研究Ⅱ 『図書館情報・メディア論』研究

課題研究Ⅲ SNS 利用の実態とその教育利用

シンポジウムでは、教育現場共通の期待がかかるデジタル教科書について、指導者用・学習者用の両者を取り上げ、改めてその学習効果や授業の変容について議論を深めたいと思います。また、学習者用デジタル教科書を有効活用するためには、タブレット端末ひとり一台体制が想定されていますが、これらを用いた実際の教育現場の声を聞き、今後の展望を示したいと思います。

課題研究Ⅰは、本年度、情報活用能力調査（文科省）が実施されることになったのをきっかけとして、情報活用能力の定義やその育成・評価方法についての関心が高まりつつあります。これらについての理論的研究、実践的な研究をご発表頂きたいと思います。

課題研究Ⅱでは、当学会が出版した『図書館情報・メディア論』に関係・関連する発表を募集します。本書は、学芸員養成課程に新設された必修科目に完全準拠した他に類書の

無いものと言われていますが、本書を執筆した関係者の方々や関連する研究者の方に、書評も交えてご発表頂きたいと思います。

課題研究Ⅲでは、大人だけではなくて、子どもたちにも日常的なメディアとして既に定着してきた SNS について、その利用実態の分析から教育現場での活用実践等についての研究成果を広く募集したいと考えています。

多くの方々からの研究発表のご応募をはじめ、当学会へのご参加をお待ちしています。

なお、本学は国立大学法人唯一の「観光学部」を有しており、紀州材で建てられた木造校舎が特徴的です。それだけ観光資源に恵まれた土地柄ともいえますので、3連休中の学会後に、南紀へ向かい山海の幸や温泉を楽しんだり、世界遺産・熊野古道などを散策することも考えられます。また、近隣でも和歌山城をはじめとして、かつての博覧会跡地にできたマリーナシティや「たま電車」といった異色の観光名所も知られています。帰路には USJ にも立ち寄れる立地でもあります。

学会後は学術的な頭から切り替え、レジャーを満喫して心身ともに寛いで頂ければと思います。

ぜひ、学校・大学関係者をはじめ家族や友人等広くお誘い合わせの上、和歌山にお越しください。

第 20 回年次大会のご案内【第 1 報】

- (1) **開催期日** 2013 年 10 月 12 日 (土) ～13 日 (日)
- (2) **開催場所** 和歌山大学 基礎教育棟
〒640-8510 和歌山市栄谷 930 <http://www.wakayama-u.ac.jp/access.html>
- (3) **開催スケジュール (予定)**

日時		スケジュール
10 月 12 日 (土)	10:00～	受付
	10:30～12:30	一般研究発表
	12:30～13:30	昼食
	13:30～15:00	基調講演
	15:00～15:20	年次大会事務局からの諸連絡
	15:30～16:30	総会
	17:00～19:00	懇親会 (学内レストランにて)
10 月 13 日 (日)	09:00～09:30	受付
	09:30～11:30	一般研究発表
	11:30～12:30	昼食
	12:30～14:30	シンポジウム 「タブレット端末・デジタル教科書は授業を変えるか」
	15:00～17:00	課題研究 I・II・III、閉会

※上記スケジュールは現在仮のものです。順次更新していきますので、最終確定は、日本教育メディア学会ウェブサイト (<http://jaems.jp/>) から「年次大会」をご確認ください。

(4) 発表申込み・原稿締切について

発表者の要件 : 発表者は会員であることが必須です。発表申込時点までに本学会への入会手続きを済ませてください。なお、入会申込書は学会ホームページからダウンロードしてください。また会員 1 名が発表できる件数は、課題研究 1 件、一般研究 1 件、計 2 件までとします。

(ア) 課題研究 (2 もしくは 4 ページ)

- ・ 課題研究テーマ
 - 課題研究 I 情報活用能力とその評価
 - 課題研究 II 『図書館情報・メディア論』研究
 - 課題研究 III SNS 利用の実態とその教育利用
- ・ 課題研究プロポーザル (要旨) の申し込み期間

2013年6月12日(水)～7月12日(金)

※課題研究プロポーザルに必要事項を記入の上、大会 Web サイトより提出してください。課題研究ごとに最大 8 件を予定しております。選考結果によっては一般発表に回っていただくことをお願いする場合もございますので事前に了承下さい。採否通知は7月末までにおこなう予定です。

・課題研究 原稿提出締切 2013年8月12日(月)

(イ) 一般研究 (2 ページ)

原稿提出期間 2013年8月13日(火)～9月12日(木)

※期日までに提出された原稿の受領をもって発表申し込みとさせていただきます。原稿枚数、書式をご確認の上、大会 Web サイトよりご提出ください。なお、一般研究に英文で提出する場合は発表も英語で行って頂きます。英語での論文は 10 件程度まで受け付けます。

(5) 年次大会の参加費用

		9月13日(金)までに支払いの場合	当日支払いの場合
参加費	会員	5,000 円	6,000 円
	学生会員	3,000 円	4,000 円
	非会員	6,000 円 ※教員の場合 2,000 円	7,000 円 ※教員の場合 2,000 円
冊子・CD-ROM (追加分)		3,000 円 (郵送料 500 円) ※参加費には1セット分含まれています。	
懇親会 (10/12 夕刻)		5,000 円 (学生 3,000 円) ※懇親会場の都合上、当日参加不可の場合があります。 できるだけ事前に参加申し込み・入金をお願いします。	

※事前申し込み開始日や入金方法については順次 Web サイトに掲載します。

(6) 大会事務局・問い合わせ先

年次大会に関するお問い合わせは下記まで電話または電子メールにてお願いします。

和歌山大学 豊田研究室 (教育学部附属教育実践総合センター 205 室)

直通電話 073-457-7536 / Fax 073-457-7538

メールアドレス toyoda@center.wakayama-u.ac.jp

研究会のお知らせと発表の募集

研究委員会の国内研究会担当では、本年度以下の2回の研究会の開催を予定しています。第1回のテーマは「教育メディアの温故知新／一般」、第2回は、今のところ「ICTと授業実践・学習支援（仮題）／一般」を考えています。研究会テーマ以外の一般の発表も行っていただけます。

研究会の発表申し込みは、本年度2回目以降は2ヶ月前、原稿締め切りは1ヶ月前ということにしたいと考えています。年次大会とは違い、研究会は学会会員以外の方の発表もお受けしますので、発表をご検討いただける方は、ご準備を宜しくお願いします。

なお、詳しいご案内は学会HP上で行います。多くのご発表とご参加をお待ちしています。

開催予定

第1回 2013年7月6日（土）午後 湘北短期大学（神奈川県厚木市）

発表申し込み：5月31日まで

原稿締め切り：6月10日

第2回 2014年3月15日（土）午後 岩手県立大学アイーナキャンパス（岩手県盛岡市）

2012年度 ワークショップ報告

1月26日（土）株式会社内田洋行新川本社・新川第二オフィスにて、「学習科学と教育メディアの接点を探る」と題して、ワークショップを開催しました。当日は、学習科学に関する基礎的な事項について学ぶ機会を設け、同時に、学習科学のアプローチを教育メディア研究に取り入れた研究発表を行い、それらについて議論しました。

まず、静岡大学の島純先生を講師としてお招きし、「『学習科学』再考—研究者の回顧分析」という演題で、講演をいただきました。

島先生にとっての学習科学のミッションは、

「学習科学の知見」と「前提条件」から教授学的な原則（デザイン原則）を構築

「新しい学び」を適切に評価する方法の開発及び普及

イノベーションの「実現」と「普及」

の3つであること。

デザイン研究という方法については、「認知」→「観察」→「解釈」のサイクルについて、説明されました（図1）。特に、観察については、学びの観察、協調文献読解活動、外化物の評価、議論の数、議論への貢献度、CSCLの書き込み、などがあることを解説されました。

また、一般化可能性の問題として、三者（教授者、学習者、研究者）の stakeholders による Action Research については、図のように示されました（図2）。

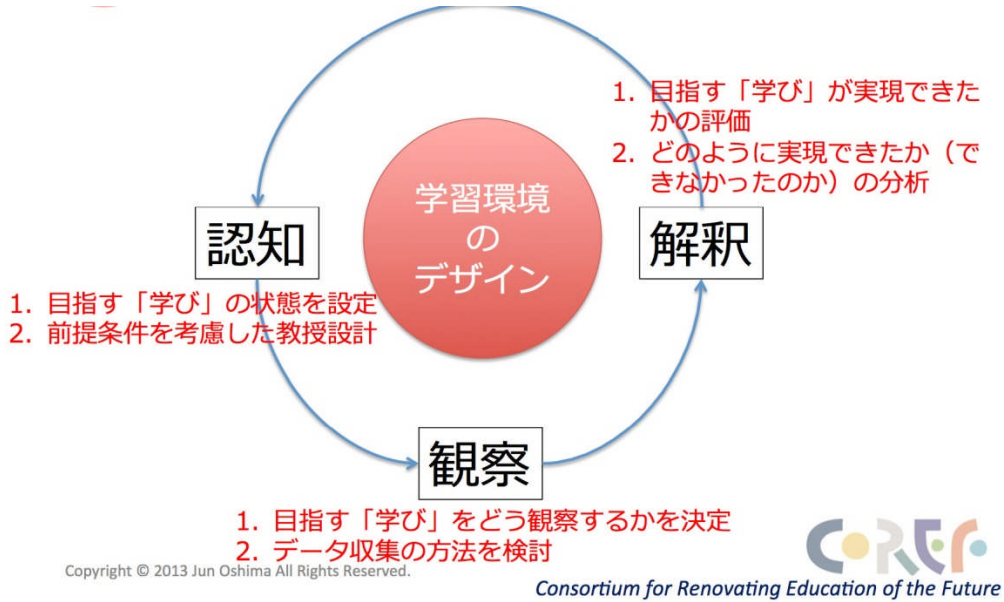


図1

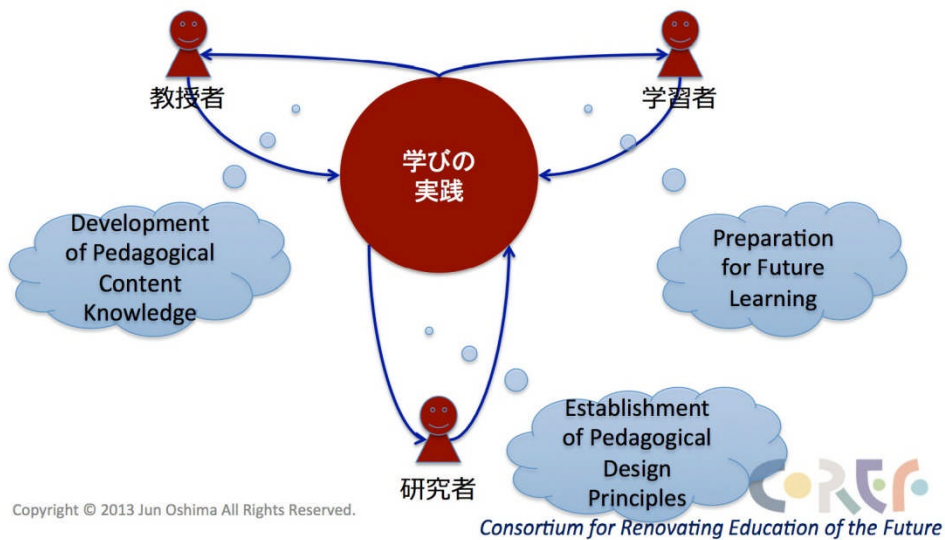


図2

学習科学と教育メディア研究：方法論や言葉の定義（のぼり方）はちがうかもしれないが、目指す頂上は近いのではないか、そのような感じもしました。

学習科学のアプローチを教育メディア研究に取り入れた研究発表については、4件ありました。

根本淳子氏は、「ストーリー型カリキュラムのための学習環境の構築」と題して、文脈を

用いたストーリー型カリキュラム（SCC）の実施と改善内容について、年次ごとに整理をしての報告がありました。また、本研究の成果を広く還元するためには、“異なる目”も必要であるとの考えが示されました。

加藤由佳里氏は、「国内外の日本語教師の専門的成長を支援する交流活動コミュニティの構築」と題して、自らの成長を自ら考える「教育の学問的研究（SoTL：Scholarship of Teaching and Learning）」を支援している中で、日本語教師からの意見をふまえ、より認知的な負荷を軽減して省察活動に取り組める工夫を試みていることの報告がありました。

岸磨貴子氏は、「ICTを活用した日本語教員養成のための学習デザイン - デザイン実践アプローチに基づいたデザイン原則の生成 -」と題して、コルブの経験学習の学習モデルを土台にしたデザイン実践アプローチに基づいて、経験学習を促す真正な学習活動のための学習環境デザインについての提案がありました。

遠海友紀氏は、「初年次教育におけるルーブリック作成を取り入れた授業設計」と題して、学習の評価基準となるルーブリックに学生の意見を取り入れる実践を行い、1) 目標を設定することに慣れる機会の設定、2) 目標を用いて振り返りを促す機会の設定、3) 学生が評価活動に参加し学習に対する責任感を醸成する取り組みの導入、が必要であることが明らかになったことについて報告がありました。

これらを受けて、参加者は、4名の発表者のどこかのグループに入り、教育メディアと学習科学の接点について、さらに議論を深めました。夜の懇親会も含め、大変有意義な1日となりました。今後もこのような合同企画を開催していきたいと思っています。

（文責：企画委員長、中川一史）

ICoME2013のご案内【第2報】

ICoME 申込み迫る！！

日本教育メディア学会が、韓国、中国と連携して開催する国際会議、International Conference For Media in Education が日本福祉大学で開催されます。「Media driven International Collaboration」（メディアを通じた国際連携）がテーマです。

実行委員会では近くのホテル、知多温泉郷の旅館の下見、確保を進めております。

海外研究者との意見交換、共同研究の開始の素晴らしい機会です。また、学部生、院生の発表（ラウンドテーブル）も企画しております。基調講演は白鳳大学の前教育工学会会長、赤堀 侃司 (Akahori Kanji)先生にお願いしております。テーマ以外にも、一般研究として、ご自分の研究分野をご発表ください。

➤ 日程

2013年8月9日 午前10時より

開会式、基調講演、ワークショップ「効果的な英語プレゼンテーション」、
一般発表、ラウンドテーブル、懇親会

2013年8月10日 一般発表、閉会式

8月11日 海外参加者との伊勢方面文化交流

➤ 会場 日本福祉大学 美浜キャンパス （ホテル、知多半田地域、旅館南知多温泉郷）

1 アブストラクト提出

5月10日まで、200語程度の、アブストラクトをWEBよりご提出ください。タイトルと概要をお知らせください。（当日の発表、15分程度、質疑5分、英語）

2 大学院生、学部生交流のための発表

5月15日まで200語程度のアブストラクトをご提出ください。当日の発表15分程度。おもに、学生間の研究交流が目的です。

問い合わせ先 icome2013@iwd.jp

申込サイト、旅館情報 <http://icome2013.iwd.jp/>

論文投稿のご案内

19号2巻で発刊予定をしていた「ソーシャルメディアと子ども」は、査読に時間がかかっているため特集号を取りやめにしました。

また、20号1巻の一般論文も同時に募集をします。下記のスケジュールで論文を募集しますのでふるって投稿をお願いします。

20号1巻の論文提出締め切り 2013年5月10日

20号2巻は「学習科学と教育メディア研究の接点」で特集論文を募集しています。この特集は、「教育メディア研究」における新しい研究アプローチを模索するためのひとつ試みと捉えています。新しい研究方法論、学習理論を積極的に取り入れ、特集論文に投稿をお願いします。

上記の変更に伴い、締め切り日を次のように改めました。下記のスケジュールで論文を募集しますので、こちらのほうもふるって投稿をお願いします。

特集論文の提出の締め切り 2013年7月20日

日本教育メディア学会の学会ロゴの募集について

日本教育メディア学会では、このたび学会 Web サイトの刷新と併せて、学会ロゴを制作するため、そのデザインを公募することになりました。シンプルで親しみやすく、力強い作品を求めます。奮ってご応募ください。

<募集要項>

1. 目的

本学会の理念・目標・特色などを表現した、日本教育メディア学会にふさわしいロゴマークを制定し、今後の学会活動（Web、大会のポスター、封筒、その他の印刷物のマーク）などに使用します。

2. 主催 日本教育メディア学会

3. 公募内容 日本メディア学会（JAEMS）のロゴマークの基本デザイン、ラフスケッチ

4. 公募期限 2013年6月30日（日）

5. 応募資格 学会員なら、どなたでも応募できます。

6. 応募要領

以下の「ロゴマーク応募フォーマット」に必要事項を記入の上、基本デザイン、ラフスケッチ（以後、作品と表現します）とともに下記に提出して下さい。

なお、応募にあたり点数に制限はありません。応募にあたって要する経費は、応募者の負担となります。応募作品は、返却しません。

7. 作成要領

ロゴマークの原案となる「基本デザイン」又は「ラフスケッチ」とし、Windows 又は Macintosh パソコンで閲覧可能なデータ及び PDF ファイルで提出して下さい。送付方法は郵送又は電子メールへの添付での送付とします。

色は、カラー（印刷物を配慮して、数色の組み合わせ）または単色とします。カラーにより提出する場合は、カラーのものと単色のものを提出して下さい。カラーの作品を単色で印刷することがあります。

縦書き、横書きを使い分ける必要がある場合は、縦書き、横書き両方のデザインも提出して下さい。

8. 作品の著作権

商標・意匠 作品の著作権・商標・意匠に関して以下の条件があります。

- (1)未発表の基本デザインあるいはラフスケッチに限ります。また、作品の中に第三者が著作権等の権利を有している著作物等を利用していないこととします。
- (2)最優秀作品として、学会のロゴとして採用した作品の著作権・商標・意匠に関し、応募者は以下のことを認めることとします。

- (3)採用作品のロゴ、学会が改変したロゴ、あるいは作品を元に作成したロゴの著作権は学会に移転し、学会の封筒、論文誌、ニューズレター、全国大会の論文集やポスター、学会のホームページ等、学会が必要と認めたところに利用します。学会が作品を加工した二次的著作物に関する著作権も学会が有することとします。
- (4)学会が決定したロゴの商標・意匠の出願・登録をする権利を学会が有することを認めることとします。
- (5)最優秀作品の著作者人格権を応募者は行使しないものとします。採用されなかった作品の著作権は学会に移転しませんが、応募事業の紹介や記録のために学会が利用することがあります。

9. 選考 日本教育メディア学会「ロゴ選考委員会」で選考します。

10. 発表

2013年8月中旬に発表します。なお、入賞作品の応募者に直接連絡するほか、本学会のホームページやニューズレターに採用した応募者の作品を含めて結果を掲載します。

11. 表彰

最優秀作品1点に対して、本年10月の学会時に広く取り上げ紹介します。

12. 備考

日本教育メディア学会の活動に関しては、本ホームページをご参照ください。

13. 応募

問い合わせ先 日本教育メディア学会 事務局「ロゴ選考委員会」

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1 武蔵大学社会学部 中橋 雄研究室内

日本教育メディア学会事務局

電話：(03) 5984-4792 メール：office@jaems.jp

【応募フォーマット】

必要事項を記入のうえ、作品とともに、郵送又はメールへの添付でお送りください。ただし、メールへの添付の場合は、自筆署名後、デジカメでデジタル化したもの又はスキャナでPDF化したものとします。

氏名、所属、連絡先、住所、電話/FAX、e-mail

応募作品の種別（基本デザイン、ラフスケッチ）該当するものに○印をつけて下さい。

デザインのコンセプトの説明

採用作品の著作権に示された条件を許諾します。自筆署名（ ）

第7期第3回理事会(臨時)議事録

1. 日時 2013年3月1日～2013年3月8日
2. 場所 会則第24条に基づく電子メールによる会議
3. 出席者 理事22名(25名中)
4. 協議事項

※会議に先立ち、会長より会則第24条に基づく電子メールでの会議開催に関する手続きの説明があった。理事は、各議案を承認することについての可否を1週間以内に返信することとした。

- (1) 2013年度 定例理事会 開催日程について

事務局の提案により2013年度・定例理事会開催日程が承認された。

- (2) 『教育メディア研究』表紙デザインの変更について

編集委員会の提案により19巻1号から『教育メディア研究』の表紙デザインを変更することが承認された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長(第7期)

中橋 雄(武蔵大学)

第7期第4回理事会議事録

1. 日時 2013年4月14日(日) 14:00～17:00
2. 場所 武蔵大学、関西大学高槻キャンパス、日本福祉大学をテレビ会議で結び実施
3. 出席者 理事22名(委任状2名)、監事2名(オブザーバー)
4. 協議事項

- (1) 入会者・退会者の承認について

入会・退会の申し出はその都度受理し、その次に開催される理事会で事後承認を行うことが承認された。

資料に基づき、前回の理事会から今回の理事会までの入会者・退会者が承認された。

- (2) 新研究委員長を選任について

岡部理事(研究委員長)の退会に伴い、会長が浅井理事を新研究委員長に選任し、承認された。

(3) ICoME 海外開催時の参加費の取り扱いについて

ICoME2010・2011 で徴収された日本人の参加費を 2012 年度会計に組み入れることが承認された。

今後 ICoME 海外開催時の日本人の参加費は当該年度ごとに会計に組み入れることが承認された。

(4) 理事会の議事録承認について

理事会の議事録承認は、学会通信作成の過程で理事会メーリングリストを用い実施することが承認された。

(5) 論文誌を会員に販売する際の価格設定について

原案の算出根拠が明確でなかったため一時保留とした。根拠を示し、臨時理事会で可否を問うこととした。

(6) 19 巻 2 号の取り扱いについて

19 巻 2 号を特集号とせずに、一般号として発行することが承認された。

(7) Web サイトのリニューアルについて

資料に基づき、Web サイトをリニューアルすることが承認された。またこれに合わせて、学会ロゴを会員に募集し、作成に向けて取り組むことが承認された。

(8) 課題研究・シンポジウムのテーマについて

資料に基づき、和歌山大学で開催される 2013 年度年次大会における課題研究・シンポジウムについて審議が行われ、課題研究 3 件とシンポジウム 1 件のテーマとコーディネーターが承認された。

(9) コンプライアンス委員会の設置について

会長より「紀要掲載論文に対する会員からの申し立て」があったこと、会長の命により本件について情報収集を行う諮問委員会を設置したこと、会長名で申立人への「申し立て却下」通知を送付し、それに対して申立人から「不服審査申し立て書」が提出されていること等の報告があり、今後の対応を行うためのコンプライアンス委員会の設置が提案され、承認された。

(10) 既掲載論文の訂正について

会員から申し出があった紀要掲載論文（第 18 巻合併号）の訂正について承認された。今後、会員から掲載済論文の正誤表を示したいと要望があった場合、編集委員会が対応することが承認された。

(11) その他

「第 17 回視聴覚教育総合全国大会 第 64 回放送教育研究会全国大会 合同大会（北海道大会）」において、本学会の後援名義使用を許可することが承認された。

<報告事項>

(1) 2012 年度決算と監査の進捗状況について報告された。

- (2) 故高桑元会長のご遺族から学会に対する御礼状が届いたことが報告された。
- (3) 『教育メディア研究』編集の進捗状況について報告された。
- (4) 論文電子化の進捗状況について報告された。
- (5) 資料に基づき IJEMT ジャーナル編集の進捗状況について報告された。
- (6) 2013 年度研究会開催日程について報告された。
- (7) 「研究会実施マニュアル」の作成について報告された。
- (8) 資料に基づき ICoME2013 準備に関する進捗状況について報告された。
- (9) 資料に基づき編集委員会との合同企画の報告と今年度の予定について報告された。
- (10) 資料に基づき学会通信の発行予定について報告された。
- (11) 年次大会に関する連絡事項が報告された。

日本教育メディア学会 事務局長 (第7期)
中橋 雄 (武蔵大学)

第7期第5回理事会(臨時)議事録

1. 日時 2013 年 4 月 16 日～2012 年 4 月 23 日
2. 場所 会則第 24 条に基づく電子メールによる会議
3. 出席者 理事 21 名 (24 名中)
4. 協議事項

※会議に先立ち、会長より会則第 24 条に基づく電子メールでの会議開催に関する手続きの説明があった。理事は、各議案を承認することについての可否を 1 週間以内に返信することとした。

- (1) 正会員が論文誌『教育メディア研究』を追加購入する際の対応について

正会員から論文誌を追加で購入したいという申し出があった場合、事務局に残部がある場合に限り、1 冊 1,000 円で提供する (振り込み手数料は当該会員の負担、送料は事務局負担とする) ことが承認された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長 (第7期)
中橋 雄 (武蔵大学)

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店(ヨンイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会(ニホンキョウイクメディアガッカイ)
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ 振込人名義は「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生(社会人学生を除く)です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください(スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます)。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要お知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員(3名)・・・田中健次、中野裕司、田中洋一

新入会員・学生会員(1名)・・・芝田成輝

退会者・正会員(4名)・・・天野 寛、渡邊光雄、瀬川良明、岡部昌樹

退会者・学生会員(1名)・・・植田詩織

退会者・講読会員(1団体)・・・関西学院大学高等教育推進センター

種別変更・正会員→学生会員(2名)・・・叶 少瑜、望月耕太

種別変更・学生会員→正会員(4名)・・・池尻良平、遠海友紀、亀山 俊、時任隼平

会員総数 359名・16団体

名誉会員：3名
正会員：328名
学生会員：28名
団体会員：6団体
購読会員：10団体
(2013年5月2日現在)

<p style="text-align: center;">日本教育メディア学会 事務局</p> <p>〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1 武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内 電話：03-5984-4792 E-mail：office@jaems.jp 学会ホームページ URL：http://jaems.jp/</p>	<p style="text-align: center;">広報委員会</p> <p>委員長 小柳和喜雄（奈良教育大学） 副委員長 永田智子（兵庫教育大学） 副委員長 村上正行（京都外国語大学）</p>
--	---

(2013年5月5日現在)